

国際交流実績



マレーシア
マレーシア工科大学 (UTM)

2012年11月、生命環境系は新たにマレーシア工科大学 (Universiti Teknologi Malaysia, UTM) と連携協定を締結しました。

UTM はマレーシアにおける5重点大学の一つで、工学分野では国内随一の研究大学です。メインキャンパスは同国南部、シンガポールに近いジョホールバルですが、同学発祥の地である首都クアラルンプール中心部にもキャンパス (KL 国際キャンパス) があります。両キャンパス合わせて約1,800名の教員を擁し、学部生約11,400名、大学院生約12,900名が学んでいます。

UTM KL キャンパス内には、日本型工学教育を導入するため日本政府の支援によりマレーシア日本国際工科院 (Malaysia-Japan International Institute of Technology, MJIT) が2011年に設立され、日本人教員を含む国際色豊かな教員陣による学部・大学院プログラムの一部が発進しています。筑波大学が、MJIT を支援する日本側大学コンソーシアムの25番目のメンバー校となったのを期に、連携協定を結ぶに至りました。

生命環境系としては現在、MJIT の中でも特に環境グリーン技術 (EGT) 専攻における教育研究を核とする連携を進めています。2012年11月には杉浦則夫教授 (生命産業科学専攻長) と、2013年2月には杉浦教授、白岩善博教授 (生命環境系長) と現地を訪問し、Zaini Ujang 副学長 (マレーシアでは学長は王族名誉職のため、実質的には副学長が学長に当たります)、Megat Johari MJIT 院長をはじめとする関係者と、今後連携を推進しうる教育研究分野や教員・学生の幅広い交流スキームなどについて協議を行ってきました。

EGT 専攻は、化学工学を中心に水処理工学、大気科学、バイオ燃料、燃料電池、廃棄物管理といった幅広い分野を網羅しています。杉浦教授が MJIT 博士後期学生を本学研究室に受け入れて指導を行うなど両大学の連携はすでに始まっており、今後さらに、生命環境系教員との短中期相互派遣や学生の相互交流をはじめとする様々な活動展開が期待されます。

2013年5月末には、Zaini UTM 副学長、Megat MJIT 院長を中心とする訪問団が来学される予定です。ともに水処理工学・環境工学がご専門の両先生のことですから、研究施設視察や教員・学生のみなさんとの交流を大いに楽しめることと思います。



写真

左上: 連携協定交換式 (UTM KL 国際キャンパスにて2013年2月26日) (左より、芝工大・松下潤教授、杉浦則夫教授、白岩善博系長、UTM Zaini Ujang 副学長、Hamdani Saidi KL 国際キャンパス長、MJIT Megat Johari Megat Mohd Noor 院長、山本隆司副院長)

上: 2012年に新設された MJIT 校舎

下: MJIT 院生と談笑中の杉浦教授

甲斐田直子

システム情報系
社会工学域・助教
(持続環境学専攻担当)

専門は環境経済・政策学。学類在学時にマレーシア (マラヤ大学) に1年間留学。

